

【二】放送を聞いて、後の問いに答えなさい。

注意

- (1) 放送中は、声や音を出さないようにしなさい。
- (2) 文章は一回しか放送しません。よく聞きなさい。
- (3) メモをとつてもかまいません。1・2ページのあいてるところをメモに使いなさい。

問題

これから、同じ人が書いた二つの文章を放送します。この二つの文章の話題は異なりますが、共通するある「問題点」を指摘しています。

(1) それはどのような「問題点」ですか。考えて書きなさい。

(2) (1)で答えたような問題がなぜ起こってしまうのかを分析すると、わたしたちがおちいりやすいある「傾向」が原因となっているのではないかと考えられます。その「傾向」を最もよく言い表していることわざを、次の中から選びなさい。

- ア あぶはち取らず
- イ 木を見て森を見ず
- ウ 朱に交われば赤くなる
- エ のどもと過ぎれば熱さを忘れる

メモ

メモ

「二」次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

じいちゃんの家は僕の家から歩いて二十分くらいのところにある。途中にある瀧尾神社の中を通れば十分くらいで行けるんだけど、夜になると物騒だから、五時過ぎたら神社の中は通っちゃいけない。

友達と遊んだ後、時々僕はじいちゃんの家に行く。じいちゃんの家に行けば夕飯のおかずをもらえるし、何よりばあちゃんとじいちゃんが喜んでくれる。「孫つてのは無条件にかわいいのよ」母さんが言ってたけど、本当にそうなのだろう。じいちゃんの家にいると、僕は

I 甘やかされてしまう。

「今日は、ひじきの煮物と、鰯の南蛮漬け。」

「やった。南蛮漬け。」

噛むと酸っぱい汁がじゅわつと出てくる南蛮漬けは僕の好物だ。僕はばあちゃん御手製プリンを食べながら喜んだ。ばあちゃんは料理は上手なお菓子となるとなぜかさっぱりで、プリンといっても茶碗蒸が甘くなっただけの代物だ。

「育ちゃんは、体にいいものが好きだからいいわ。」

僕のことを育ちゃんと呼ぶのはばあちゃんだけだ。

「よく言われる。」

僕はみんなが嫌いだと言うような食べ物でも平気だった。トマトとマヨネーズ以外はなんでも食べられる。甘いのも辛いのも酸っぱいのも大好きだ。にんじんやピーマンなど色の濃い野菜が大嫌いな池内君や、鰯や鰯などの原形がリアルにわかる小さな魚は食べられないという朝ちゃんに比べると、ずっとたくさんの種類の物を食べていることになる。そう思うとなんでも受け取ってくれる僕の体って素晴らしい。

「じいちゃんの部屋に行ってくる。」

僕はプリンをさつさと片付けると、「もう一つ食べない？」と言うばあちゃんの勧めを振り切って二階へ上がった。

「おお、坊、来たか。」

部屋の扉をそっと開けると、大きい声でじいちゃんが言った。じいちゃんは耳が遠い分声がでかい。

「来たよ。」

僕はそう言いながらじいちゃんの部屋を見渡した。じいちゃんには、猫をかたどった物がたくさんある。置物や絵、仮面やぬいぐるみ、花瓶まで。とにかく猫を描いた物が所狭しと並んでいる。じいちゃんのコレクションなのだ。僕と母さんが一緒にプレゼントしたキティちゃんのクッションも乱暴に置かれていた。

「何か増えた？」

僕が聞くと、じいちゃんはいくつかに棚から一つの箱を取り出した。

「お客さんからもらったんだが、これは珍しいものだよ。」

箱の中にはおはじきがいっぱい入っていて、その一つ一つに猫の顔が描かれていた。

「わあ、すごい。」

僕はおはじきをいくつか手にとりて見てみた。手描きなのだろう、全部描かれている猫の顔が違う。

「気に入ったか。」

じいちゃんの声に僕は大きくうなずいた。

「坊はいくつになったんだっけ？」

「十一歳。」

「よし。だったら、十一個持ってお行き。」

じいちゃんは植木屋をしている。腕のいい職人だから、遠くまで仕事に行くことも多い。そしてその度に猫のものを買ってくるから、じいちゃんのコレクションは日に日に増えていく。

II じいちゃんが猫コレクションを始めたのは十年ほど前のある出来事が発端となっている。僕は物心ついた時から何度もその話を聞かされている。じいちゃんが話すと一時間かかる話だけど、簡単にするとこうだ。

その日、じいちゃんはいつものようにお客さんの庭の木を切っていた。その家で仕事するのはもう五度目だったから、どうも気がゆるんだ。じいちゃんはバランスを崩してはしごの上から落っこちた。じいちゃんが言うのには、ミスをしたのは、植木屋になって三十年、それが最初で最後だ。驚いたことに、かなりの高さから落ちたのに、じいちゃんは無傷だった。すり傷一つなかった。びっくり返ったまま横を見ると、猫がじいちゃんの顔をじっと見つめていた。

「その猫が助けてくれなかったら、じいちゃんは即死だったよ。」

猫がどうやって落ちてくる人間を助けるのかは疑問だったし、はしごから落ちた

くらいで死ぬなんて大げさだけど、じいちゃんはその猫に助けられたと強く信じている。それ以来、猫を神様のようにあがめ、猫と名のつくものをせっせと集めているのだ。

②「案外その猫がはしごを揺らしていたりしてね。」

母さんはそう言ってじいちゃんを笑っているけど、猫柄のパジャマや猫のぬいぐるみをプレゼントして、じいちゃんのコレクションに協力していた。

「坊、まだかい？」

僕はまだ八つしか選べてなかった。おはじきの中に描かれた猫の顔はどれも同じようで微妙に違うから、悩んでしまう。

「早く、そして、いいやつを選べよ。男は決断が上手くないとだめだ。」

じいちゃんはすぐに、男はこうだ、男ならこうしろ、と言う。父さんがいないから、僕が女々しくなりはしないかと心配しているのだ。

「決まった。これにする。」

僕は迷ったあぐくの十一個のおはじきを手のひらに載せて、じいちゃんに見せた。

「おお、さすが坊、やるじゃないか。」

じいちゃんは僕が選んだおはじきを見るとやりと笑った。じいちゃんに誉められて、僕はほこした気分でおはじきを握りしめた。

「育ちゃん、雨が降りそうだから、今日は早めに帰った方がいいわ。」

「ばあちゃんが一階から僕を呼んだ。」

七時前の空は、雨を含んでいるせいか夜に近づいているせいか、暗い灰色になっている。だけど、秋の夕方の美しさにはなんの変わりもなかった。雨降りだろうと何だろうと秋の夕方は文句なく美しい。ばあちゃんは傘を持っていくようになって言ったけど、僕は断った。秋の夕方のかほそい雨に降られて帰り道を歩きたかった。空を見上げると、遠慮がちにそと顔に雨粒が落ちてきた。

母さんはどんなに降水確率が高くても、家を出る時に大雨が降っていない限り、傘を持たない。「どうなるかわからない先のことのために、あんな重いもの持って歩けないし、雨だつてわざわざ傘で防がないといけないものじゃないでしょう」というのが母さんの「ジロン」だ。だから、母さんはしょっちゅう濡れになって帰ってきた。僕は風邪を引いたら困るし、朝の天気予報で降水確率が50%を超えたら必ず傘を持つていく。でも、これくらいの雨はちょうどいい。濡れるほうがきつといい。夕暮れでも海でも山でも、とことんきれいな自然と④「人じゃないって確認でき

るものがある時は、ひとりぼっちで歩くといいのよ。母さんの言うとおりだ。ポケットの中で猫のおはじきをそと握りしめて、僕は雨を連れて家に向かった。

(瀬尾まいこ『卵の緒』による)

注 *1 南蛮漬け＝油で揚げた魚などを、きざんだネギやトウガラシを加えた酢に漬けた料理。

*2 タッパーウェア＝食品を保存する容器。タッパー。

*3 リアル＝物事があるのままだにわかる様子。

(1)

I	と	II
---	---	----

 に入ることばの組み合わせとして適当なものを、次の中から選びなさい。

ア I＝まんまと II＝だいたい
イ I＝とことん II＝たまたま
ウ I＝さんざん II＝そもそも
エ I＝とうとう II＝もともと

(2) 線部「小一時間かかる」の意味として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 一時間半くらいはかかる
イ 一時間とあと少しはかかる
ウ およそ一時間近くはかかる
エ 少なくとも一時間はかかる

(3) 線部①「ばあちゃんは料理は上手なのにお菓子となるとなぜかさっぱりで、プリンといっても茶碗蒸が甘くなっただけの代物だ。」とありますが、こうした「僕」の見方が行動に表れていることがわかる一文を文章中から探し、最初の五文字をぬき出しなさい。

(4)

——線部②「『案外その猫がはしごを揺らしていたりしてね。』と言う母さんの気持ちを表しているものとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア じいちゃんを笑いながらも、心の中では猫がじいちゃんの命を救ってくれたことに感謝して、それを「僕」に伝えようとしている。

イ じいちゃんの思いこみに半ばあきれながら、自分でも想像を広げて、猫の助けという不思議な話の楽しさを心地よく受け止めている。

ウ じいちゃんのばかげた話につきあうつもりはないが、正直にそう言うとしいちゃんがかわいそうなので、冗談交じりに話を合わせている。

エ じいちゃんの話のとおりなら、実は猫がはしごを揺らすことだってありうることになると思い、じいちゃんの思いこみをたしなめている。

(5)

——線部③「ほこほこした気分」とありますが、ここからは「僕」のどんな気持ちがかがえますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア じいちゃんから認められたほこらしさと、じいちゃんの優しさを温かく感じる気持ちが入り交じっている。

イ じいちゃんに誉められたうれしさと、いつものように甘やかされた「僕」の恥ずかしさとが入り交じっている。

ウ じいちゃんから認められたほこらしさと、早く帰って母さんに知らせたということどかしさとが入り交じっている。

エ じいちゃんに誉められたうれしさと、珍しいおみやげまでもらって得をしたという気持ちが入り交じっている。

(6)

——線部④「一人じゃないって確認できるもの」とありますが、「僕」にとっては何がそれに当たりますか。文章中のことばを使って十五字以上二十五字以内で答えなさい。

(7)

——線部⑤「僕は雨を連れて家に向かった。」とありますが、「雨を連れて」という表現からは、「僕」のどんな気持ちがかがえますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 傘をささないことによって雨が秋の夕方の景色をより美しくすることに気づき、新鮮に感じている気持ち。

イ 雨が体を濡らす心地よさを初めて感じて、傘を持たない母さんの気持ちがやっとわかって納得している気持ち。

ウ 夕暮れの美しさの中で雨に濡れながら、今まで遠ざけていた雨を自然の一部として親しみ深く感じている気持ち。

エ ひとりぼっちで帰る夜道は寂しいので、雨に降られて母さんを思い出すことができるのをうれしく思う気持ち。

(8)

この文章の特色を説明したものとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 「僕」の子供らしく時に無邪気な言動が、かわいらしい動物にたとえて描き出されている。

イ 家庭の中で起こるありふれたできごとが、時間の流れにしたがつて順を追って語られている。

ウ 秋のしみじみとした情景を背景として、家族の心のふれあいが母親の視点から描かれている。

エ 日常的なだけで言葉づかいや歯切れのいい会話文の中に、人物の心情が自然に表現されている。

(9)

文章中のA **ハテ**・B **ジロン**を漢字に直しなさい。(送りがある場合は、きちんと書くこと。また、ハネやハライなどの点画もきちんと書くこと。)

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(①～⑧は段落の番号を示します。)

① ^{*1} コンピュータ・ネットワークで人間のコミュニケーションを実現しようというときには、そもそもの人間のコミュニケーションについて理解することが不可欠です。しかし言うまでもなく人間のコミュニケーションは多様で複雑ですから、それをどのように ^{*2} 抽象化して、構造(アーキテクチャー)を把握するかが、重要なポイントになります。そして、こうして得られた理解に基づいて、コンピュータ・ネットワークが形づくられていくわけです。

② コミュニケーションは、そのための仕組みに注目したり、約束事に注目したり、役割分担に注目したりすることで、いろいろに分解することができます。

③ ここで「話す」というコミュニケーションについて考えてみましょう。

④ まず話者が頭で何かを考える。そしてそれを意味のある言葉に置き換える。次に言葉を音にして発音する。ここまでは、話者の内部での作業です。発音されるということはどういうことかといえば、声帯が、空気を震わせるということです。そして、あいだに入った空気が震えを伝播して、相手の鼓膜を震わせることになります。ここから今度は聞き手の側の作業になります。すなわち、鼓膜の震えを聴覚神経が脳に伝え、脳はそれを音声として認識し、さらに言葉として把握し、意味を理解する——ざっと、このような過程をへて、コミュニケーションが成立するのです。

⑤ このように考えることから、少なくとも二つのポイントをつかむことができます。一つめは、コミュニケーションは、いろいろな役割分担に分けて考えられるということ。この「役割」は、必ずしも物理的な役割ではなく、抽象化した役割ですが、とにかくいくつかの役割が組み合わされてコミュニケーションが成立していると言えるわけです。

⑥ もう一つは、その役割を見た場合、^② コミュニケーションは対称に考えることができるということです。先ほどの例であれば、空気の振動を中心に、声帯と鼓膜、発声と聴覚、音声、言葉、意味という役割は話し手と聞き手の双方に対称の役割があります。これを、逆から考えると——**A**、実際にあるコミュニケーションを分解するのではなく、なにもないところにコミュニケーションを作り出すという側から考えると、役割分担をどう対称に割り振るか、**B** 対称な役割分担を与えられたもの同士のアいだをどうつなぐか、ということになります。

⑦ ここで気がつくことは、人が直接話すというコミュニケーションは、あいだにある空気が支えているということです。これは、コンピュータ・コミュニケーションでは「通信の基盤」にあたります。通信の基盤というのは、電線や、光ケーブル、または電波であつたりします。

⑧ 人間のコミュニケーションと、電子的なテクノロジーが関わったスタートは、二人が離れていった場合です。最初にマイクロフォンと拡声器を使うことによって、空気の震えに関わる部分にテクノロジーを援用したわけです。これで、コミュニケーション可能な範囲が広がりました。やがて電話の通信網ができて、飛躍的にコミュニケーションの世界が広がりました。このように人間のコミュニケーションを、テクノロジーがだんだんと強く支援していくようになります。この過程が進んで、いまコンピュータ・ネットワークができてきたわけです。したがって、コンピュータ・ネットワークも、人間のコミュニケーションのそもそもの構造に立ち返って、見ることができます。

(村井純「インターネット」による)

注 *1 コンピュータ・ネットワークは複数のコンピュータを通信回線を使って接続し、データのやりとりを行えるようにしたもの。

*2 抽象化は複数のものから共通する性質をぬき出し、頭の中でまとめあげること。

*3 光ケーブルは離れた場所に光を伝えるための電線。

*4 テクノロジーは科学技術。

*5 援用は助けとして用いること。

(1) ~~~~~線部「不可欠です。」とはどのような意味ですか。次の
に適切なことばを補って答えなさい。

どうしても

です。

(2) 文章中の A B に入ることばの組み合わせとして適当

なものを、次の中から選びなさい。

ア A Ⅱ また B Ⅱ しかも

イ A Ⅱ つまり B Ⅱ そして

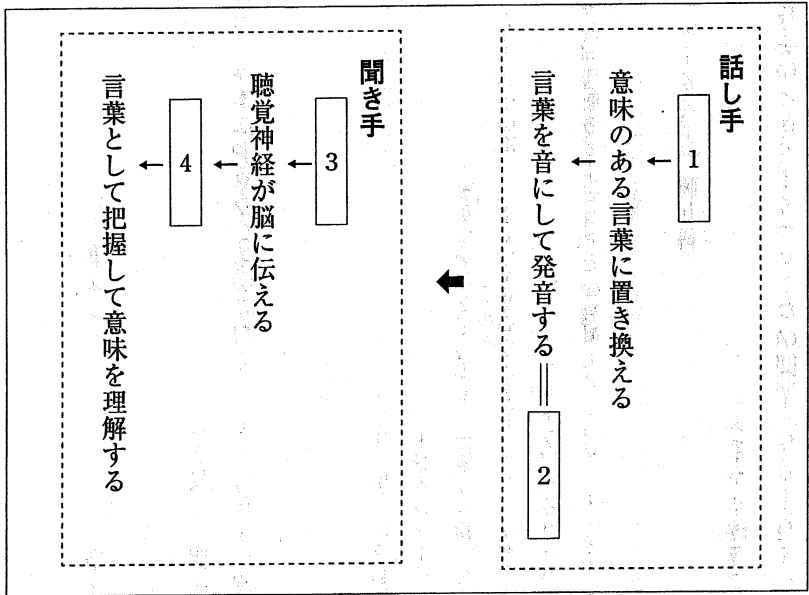
ウ A Ⅱ そこで B Ⅱ すなわち

エ A Ⅱ したがって B Ⅱ あるいは

(3) 線部①「話す」というコミュニケーションとありますが、次の図は、

このコミュニケーションの流れを図式化したものです。 1 4

の中に入ることばを、それぞれ後のア、エの中から選びなさい。



ア 鼓膜が震える

イ 震えを音声として認識する

ウ 頭で考える

エ 声帯が空気を震わせる

(4) 線部②「コミュニケーションは対称に考えることができる」とありま

すが、それはどういうことですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア コミュニケーションでの役割は、聞き手を中心に、二人の話し手が対比されるように考えられるということ。

イ コミュニケーションでの役割は、話し手と聞き手を中心に、その双方が対等の立場に立つと考えられるということ。

ウ コミュニケーションでの役割は、言葉を中心に、話し手同士が意味を理解し合うものとして考えられるということ。

エ コミュニケーションでの役割は、空気を中心に、話し手側と聞き手側とで互に対応していると考えられるということ。

(5) 線部③「この過程が進んで、いまコンピュータ・ネットワークができ

てきたわけです。」とありますが、「この過程」とはどのような過程ですか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 人間のコミュニケーションにテクノロジーが応用され、やがて人間同士が直接話せるネットワークによって結びついていく過程。

イ マイクロフォンと拡声器をもとにして電話の通信網が開発された結果、テクノロジーが人間の世界に飛躍的に広まっていった過程。

ウ 遠く離れた人に音声を伝えるためにテクノロジーが活用され、やがてネットワークを支える「通信の基盤」ができあがっていく過程。

エ 人間のコミュニケーションにテクノロジーが援用された結果、直接話すことのなくなった人間同士が心理的にますます離れていった過程。

(6) この文章を、内容の展開の上から四つの部分に分けるとすると、どうなりますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア ①―②―③―④⑤⑥―⑦⑧

イ ①②―③―④⑤―⑥⑦⑧

ウ ①―②③―④⑤⑥⑦―⑧

エ ①②―③④―⑤⑥⑦―⑧

(7) この文章では、コンピュータ・ネットワークと人間のコミュニケーションとは、どのような関係にあると述べられていますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア コンピュータ・ネットワークは、多種多様の人間のコミュニケーションを二つにまとめて、単純化している。

イ コンピュータ・ネットワークは、人間のコミュニケーションの構造をもとにして、そこから形づくられている。

ウ コンピュータ・ネットワークは、さまざまな人間のコミュニケーションを複雑化して、新たに構成されている。

エ コンピュータ・ネットワークは、人間のコミュニケーションからいくつかの役割を選んで、それらを組み合わせている。

国語 解答用紙(平成二十年度)

【三】		
(4)	(3)	(1)
	1	
(5)	2	
(6)	3	(2)
(7)	4	

【三】			
(7)	(6)	(3)	(1)
(8)			(2)
		(4)	
(9)			
A			
			(5)
B			

【三】	
(2)	(1)

受験番号	
------	--

(国語)

※記入しないこと
